

# 探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算  
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

## 効果報告レポート

【事業者名】

株式会社アスノオト

【サービス名称】

さとのば for スクール

【サービスの支援項目】

カテゴリーⅠ 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



# ■ 探究・校務改革支援サービスの概要

## 1. サービスの概要、特徴

### (1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い

- 市民大学運営チーム(さとのば大学)が提供主体となり、教育・地域・社会人ネットワークを統合した探究学習支援が可能
- 全国14地域の連携地域・社会人・多様なキャリア人材との接続により、学校単体では構築困難な外部連携型探究環境を実現
- 探究授業の設計・実施・外部連携・事前調整・振り返りまでを一体型で支援する総合サービス

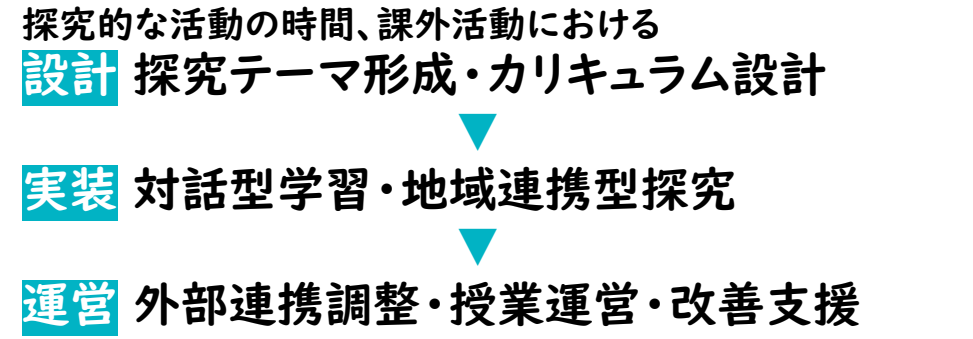
「探究授業の高度化」と「教員業務支援」を同時に成立させる統合型サービス

| 観点    | 一般的な外部探究支援 | さとのば for スクール                   |
|-------|------------|---------------------------------|
| 提供形態  | 単発講師派遣・講演型 | カリキュラム設計～実施～外部連携まで <b>一体支援</b>  |
| 探究の深度 | 体験重視・イベント型 | <b>継続的</b> 探究学習設計(問いの深化・自己理解接続) |
| 外部連携  | スポット型      | <b>全国ネットワーク型</b> (地域・社会人・大学生)   |
| 教員支援  | 教材提供中心     | 業務設計・調整・運営負担軽減まで含む <b>伴走支援</b>  |
| 学習構造  | 学校内完結      | <b>社会接続型</b> 学習構造               |

### (2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

- 学習面**  
 主体性・問いの形成・将来接続力を育む  
 社会接続型探究学習の実現
- 業務面**  
 探究授業設計・運営・外部連携の一体化による  
 教員業務負担の構造的軽減  
※授業関連業務時間:最大71%削減

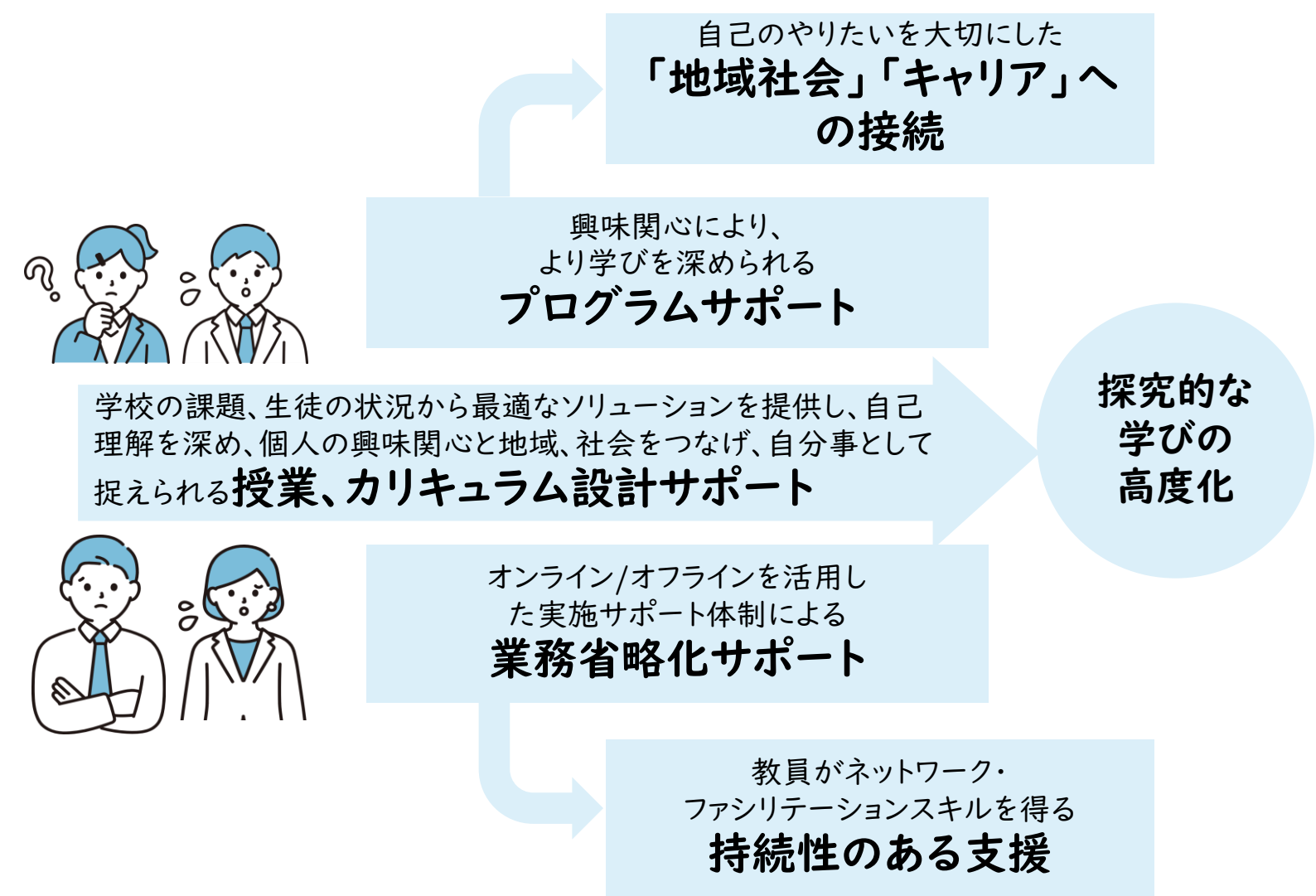
### (3) サービスの活用場面



### (4) 1サービスあたりの標準販売価格 1,000,000円(一式 税別)

# ■ 探究・校務改革支援サービスの概要

## 2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）



教育/探究・ソーシャルイノベーションの経験豊富なメンバーがチームを組んだサポート体制



**信岡 良亮 さとのば大学 発起人・理事長**

さとのば大学を運営する株式会社アスノオトを創業。現理事長。Forbes JAPAN「NEXT100 世界を救う希望100人」に選出



**兼松 佳宏 さとのば大学 学長**

「greenz.jp」元編集長。京都精華大学特任教員として、プログラム開発。現「さとのば大学」学長。著書に『beの肩書き』等。



**岡 佑夏 さとのば大学 高大連携ディレクター**

PBL教育コンサルタント。通信制高校の立ち上げに参画し、事務局長・校長を歴任。様々な学校のコンサルティング、教員向けの研修を行っている。



**田代 純一 さとのば大学 カリキュラム担当**

教育×地域を軸に、高校・大学・地域をつなぐ学びの企画・実践を行う。探究・キャリア教育や高大連携を多数担当。

生徒は探究と暮らしや将来が結びつかず主体性を持ちにくく、教員は業務過多や探究経験・外部連携の不足に課題を抱えている。本サービスは、目的別プロジェクト学習の総合メニューと外部連携リソースの提供を通し、生徒の学習課題を解決するとともに、教員業務の負担軽減に貢献。

### 児童生徒・教職員が抱える課題

#### ◎生徒

**ソース不足:**自身の暮らしや原体験と探究テーマが結びつかず、問いが自分ごとにならないため、熱量がわきにくい

**将来との接続不全:**探究の取り組みが将来像や進路と結びつかず、何のために学んでいるのか目的を見出しにくい

**環境不備:**壁打ち相手や、親・教員以外の大人との接点がなく、思考を深めたり広げたりする機会が不足している

#### ◎教員

**負担の大きさ:**日々の校務や対応業務に追われ、探究の授業設計や自身の研究に十分な時間を割けない

**経験・知識不足:**自身に探究学習の実践経験が少なく、探究のプロセスやカリキュラム設計に難しさを感じている

**外部連携の負担・ネットワーク不足:**外部人材や地域との連携に関するノウハウやネットワークがなく、調整や関係構築が負担に

### サービスが果たす役割

- ・自己理解を深め、個人の興味関心を深堀することで、自分事として捉えられる独自のメソッドによる授業設計⇒負担の大きさ、ソース不足を解決

- ・同じ地域に暮らし活躍するプレーヤーを授業に招き、街歩きや対話の機会を提供し、社会課題を生徒の身近に⇒ソース不足、環境不備、外部連携の負担・ネットワーク不足を解決

- ・経営者、NPOの代表、大学生など、多様な層の人材と学校の接点を提供⇒接続不全、環境不備、外部連携の負担・ネットワーク不足を解決

- ・学校、生徒のニーズを把握し提案。教員の探究授業設計・ファシリテーションスキルや外部連携のサポート⇒負担の大きさ、経験・知識不足を解決

## サービスの活用風景・授業の流れ

### 多様なキャリアを持つ大人との対話を通じた探究・進路形成支援



名前: \_\_\_\_\_

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p><b>ワーク① 直感ワーク1</b></p> <p>高校生～社会人1年目までの中で面白そうな1つ種を選んで理由を教えてください</p> <p>選んだテーマ: _____</p> <p>選んだ理由: _____</p> | <p><b>ワーク② つなげるワーク</b></p> <p>経験知・積極的学び・身体知の中から、「これは使えるかも?」と感じるものを1つ選び、理由を教えてください。続けて、社会人2年目以降から聞きたい内容を1つ選んでください</p> <p>選んだ学び: _____</p> <p>選んだ理由: _____</p> <p>聞きたいテーマ _____</p> | <p><b>ワーク③ 明日からワーク</b></p> <p>今日、家に帰ったらすぐできる、最初の一步を一っだけ決めてみよう</p> <p>共有した内容(グループワーク) _____</p> <p>やってみるごと _____</p> |
|---|---|---|

生徒が探究と自身の暮らしや将来を結びつけにくく、主体的な問いを持ちづらいことに加え、教員にとっても外部人材との連携や授業設計が負担となっていた。本事例では、社会起業家やパラレルワーカー、大学生など多様な大人を授業に招き、オンラインプログラムを提供した。授業は講演にとどまらず、独自のワークや対話を実施。生徒が自身の興味・関心を起点に探究や進路の種を見つける機会を創出するとともに、外部連携の企画・調整を担うことで教員の負担軽減につなげた。

### 地域資源を活用した街歩き型探究



地域を自分事として捉えにくく、探究が机上の学習に留まりやすいことに加え、教員にとっても地域連携の企画・調整が大きな負担となっていた。本事業では、日本全国の人材ネットワークを活用し、地域での街歩き型授業を実施。単なる観光ではなく、地域で暮らし活動する人々との対話や仲間同士の振り返りを通じて、生徒が新たな視座を獲得できる学習機会を設計した。これにより、生徒が地域や社会課題を身近なものとして捉え、探究テーマの深まりを促すとともに、地域連携に係る教員の負担軽減や今後のネットワーク形成にもつながった。

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

|        |   |          |     |
|--------|---|----------|-----|
| 学校設置者数 | 2 | 学校等教育機関数 | 2 校 |
|--------|---|----------|-----|

|   | 学校設置者名   | 学校等教育機関名  | 所在地 | 学校種  | 学年   | 実施内容           |
|---|----------|-----------|-----|------|------|----------------|
| 1 | 長野市教育委員会 | 長野市立長野中学校 | 長野県 | 中学校  | 1年   | 総合的な学習の時間      |
| 2 | ワオ未来学園   | ワオ高等学校    | 岡山県 | 高等学校 | 1-3年 | 総合的な探究の時間、特別活動 |

定量的効果検証

■授業企画・実施に関する効率化、省力化の成果（授業1コマあたり）

| 内容                   | 従来の稼働時間 | 導入後の稼働時間 | 削減時間 | 削減率  |
|----------------------|---------|----------|------|------|
| 授業企画・実施              | 7h      | 2h       | 5h   | 71%  |
| 授業内容の検討              | 1h      | 2h       | +1h  | -50% |
| 授業の準備<br>(資料作成等)     | 3h      | 1h       | 2h   | 68%  |
| 学校内調整<br>(先生調整、生徒案内) | 2h      | 1h       | 1h   | 50%  |
| 課外活動の情報収集・案内         | 10h     | 6h       | 4h   | 40%  |

※導入先の中学・高等学校2校へのヒアリング結果の平均より算出(母数5)

定量的効果検証

■探究学習における生徒の学びの高度化の成果検証

— 文部科学省定義(整合性・効果性・鋭角性・広角性)に基づく分析(n=57) —

出現割合

代表的な記述

広角性  
60%

- ・まだ未来は決まった訳じゃないので、いろんな選択肢を増やすために、とにかくやってみるを増やしたい
- ・今までの普通とこれからの普通が違って、これからは学び続けることが大事な社会になると分かった

整合性  
30%

- ・価値観や優先順位が変わるからこそ、何のためにしているのかをもう一度考えたいと思った
- ・自分が幸せと思えることや、楽しいと思えることを軸にして、これからの進路や学びを考えていきたいと思った

鋭角性  
35%

- ・固定観念に囚われず、自分の好きなことにBETしていくことが大切だと気づいた
- ・好きなことを突き詰めて、他の人ができないレベルまでスキルを身に着けるのもありだと思った

効果性  
45%

- ・変化の多い社会なので、その場限りの知識ではなく、次にも活かせるように自分なりにアレンジして学んでいきたいと思った
- ・人に話すことで情報が集まったり、次の行動につながると思ったので、これからは自分から発信していきたい

生徒アンケートを、文部科学省が定義する以下の「探究の高度化」4観点に基づき内容分析し、各観点到該当する記述の出現割合を算出した(複数該当あり)。

**広角性:**幅広い可能性を視野に入れながら探究をした

**整合性:**目的と方法が矛盾しない探究をした

**鋭角性:**焦点化し、深く掘り下げて探究をした

**効果性:**資質・能力を適切に活用して探究をした

## 定量的効果検証

### ■定量的効果検証結果からの考察

#### 【前提】

本事業が解決を試みる、生徒の探究における課題

課題① **ソース不足**:自身の暮らしや原体験と探究テーマが結びつかず、問いが自分ごとにならないため、熱量がわきにくい

課題② **将来との接続不全**:探究の取り組みが将来像や進路と結びつかず、何のために学んでいるのか目的を見出しにくい

課題③ **環境不備**:壁打ち相手や、親・教員以外の大人との接点がなく、思考を深めたり広げたりする機会が不足している

#### 課題① ソースの向上への対応(整合性・鋭角性)

「好き・得意・モヤモヤ」など内発的関心を起点とすることを支援した結果、

- ・好きなことを深めようとする意識の変化
- ・自分の価値観や幸福感を軸に、学びや進路を捉え直す様子が確認された。

これは、探究が外発的な課題対応から、生徒自身の経験や価値観と結びついた営みへと変化しつつあることを示している。

#### 課題② 将来像との接続への対応(広角性)

社会起業家・NPO・パラレルワーカー・大学生など普段接しない多様な大人との対話機会を設けた。その結果、

- ・将来像の選択肢が拡張
- ・身近な職業に限定されがちだった将来観が広がる
- ・自身の探究が様々な将来像と接続し得るものとして再認識する変化が見られた。

## 定量的効果検証

### 課題③ 環境不備への対応

外部大人・大学生との対話機会を複数設けたことで、

- ・他者の価値観や経験に触れる
- ・自身の考えを再構成する機会が生まれる

影響が見られ、それらは広角性・鋭角性・効果性に横断的に表れており、思考の深化および探究継続意欲に寄与したと考えられる。

### \*全体結果から得られた示唆

広角性(60%)と比較すると、整合性(30%)および鋭角性(35%)は、出現割合は限定的であった。本事業により、生徒が将来像や可能性を広げ、探究と自己を接続する変化は確認された一方で、

- ・自身の価値観や関心を軸として定めること
- ・テーマを絞り深めていくこと

については、一定の時間をかけた継続的な対話や探究経験の蓄積が必要であることも示唆された。

## 定性的効果検証

※アンケートより分析

### ① 生徒への定性的効果

#### 視座・認識の変化

多様なキャリアを持つ大人や地域の人との対話、街歩き型の体験を通じ、これまで抽象的だった地域や社会、将来像を具体的に捉え直す様子が見られた。

「若者しかいないと思っていた地域に、幅広い世代が暮らしていることに気づいた」「意外な一面を発見した」といった発言から、既存のイメージや固定観念が更新された様子

#### 対話を通じた思考の深化

「対話が途切れず続く感覚が新鮮だった」との声があり、講義型では得られにくい深い対話体験が、生徒の思考や関心を持続的に刺激したことがうかがえた。

#### 主体性・行動意欲の向上

「やってみたいことを言葉にして行動したい」「とにかくやってみるを増やしたい」「選んだ道を正解にしていきたい」といった発言が多く、探究や進路を“考えるもの”から“行動につながるもの”として捉える意識の変化が確認された。

#### 将来との接続・心理的安心感

進路に不安を抱えていた生徒からは、「話を聞いて気持ちが落ち着いた」「選択肢が広がった」との声があり、将来との接続や心理的な安心感の醸成にも寄与した。

### ② 教員への定性的効果

外部人材や地域資源を活用した授業により、生徒のキャリアの視野が広がり、進路について考えるきっかけが生まれたとの評価が得られた。

外部連携の企画・調整をサービス側が担うことで、教員の負担が軽減され、授業内での伴走やファシリテーションに注力できる環境が整ったと言える。



アンケート母数 延べ 127名



高校教員

生徒が普段聞くことのできない話を聞くことができたことでキャリアの視野が広がり、また、今の社会で重要とされている事柄に触れることで進路について考えるきっかけとなるなど、キャリア教育および進路指導の充実につながった。



高校教員

まちとの関わりは、生徒がリアルな声に触れ、多角的な視点から自らの「問い」を育む絶好の機会です。サービス導入により、生徒がまちへ飛び出すだけでなくリアルに繋がる、深い探究学習が実現できると実感しています。



高校1年生

就職って人生が決まる重大な決断!って感じがあったけど、転職が当たり前になっていきそうで、そこまで重く考える必要がなくなるのかなと思った。



高校2年生

今まで何か行動しようというとき、一歩引いてしまうことが多々あった。けれど今日の話聞いて積極性が重要なのかなと感じたから、これから少しずつでもやりたいことや興味を持ったことは身を乗り出して知りにいこうと思った。



高校2年生

今までの普通とこれからの普通が違って、これからは学び続けることが大事な社会になるということが分かった

サービス導入にあたり、学校状況に応じた事前調整に想定以上の時間を要し、教員負担や生徒の事前理解の差が課題として見られた。これに対し、学校と事業者の連携体制強化や事前アナウンス、アンケート活用を行い、学習効果の向上と運用負担の軽減を図った。

### 直面した課題

#### 学校ごとの状況に応じた事前調整に想定以上の時間を要したこと

本サービスはパッケージ型で提供しているが、実際の導入にあたっては、学校のカリキュラム進行や生徒の状況が都度変化するため、その時点で最適なコンテンツを選定・調整する必要があった。その結果、事前の打ち合わせやすり合わせに想定以上の時間を要し、双方負担が生じる場面が見られた。

**慣れない授業形式に対する生徒の事前理解・期待値の差**  
外部人材が関わる探究型授業は、一部生徒にとって慣れない形式であり、事前理解や期待値に差が見られた。そのため、学習効果を十分に引き出しきれない可能性が課題として認識された。

### 解決するための改善策

学校側と事業者側それぞれに担当者を明確に配置し、授業前後の流れや文脈を共有する体制を構築した。これにより、全体像を把握した上でのコンテンツ選択が可能となり、認識の齟齬を減らすとともに、調整に係る負担の軽減を図った。また、生徒にアンケートを都度実施し、次回以降のコンテンツ選定に活用することで、事前調整の精度向上につなげた。

学活等の時間を活用し、次回授業の趣旨やゲストの紹介を事前に丁寧にアナウンスするとともに、生徒から「どのような話を聞きたいか」を事前アンケートで収集し、その内容を外部人材と共有することで、授業内容の調整を行った。これにより、生徒と外部人材とのミスマッチを防ぎ、対話の質向上と学習効果の最大化を図った。

## ■会社概要

|      |   |
|------|---|
| 社名   | 株式会社アスノオト   |
| 代表   | 代表取締役 信岡 良亮   |
| 設立年月 | 2015年5月22日  |
| 本社   | 東京都千代田区神田錦町3-21 (郵便BOX番号1345)   |
| 資本金等 | 43,200,000円   |
| 売上高等 | 16,336,753円   |
| 従業員数 | 5人  |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 人材育成・教育事業</li><li>■ ICTを含めたコミュニケーション・コンサルティング</li></ul> |

## ■お問い合わせ窓口

担当：田代純一

電話：080-7435-0505

Mail：renkei@asunooto.co.jp



高校向け  
探究支援  
事業

地域留学体験  
プログラム  
事業

市民講座  
(特別講義)